



回復期リハビリテーション病棟



回復期リハビリ病棟は、脳血管疾患、大腿骨頸部骨折などの患者様に対し、自宅への復帰を目標にADL(日常生活動作)能力の向上を目指し、リハビリテーションを集中的に行う病棟です。

医師3名、看護師23名、看護補助員3名、PT(理学療法士)4名、OT(作業療法士)3名、ST(言語聴覚士)2名が、日々協働し業務を行っています。



回復期リハビリテーション病棟 看護師の役割

- ①患者中心のゴール設定とそれに向かったのADL(日常生活動作)の拡大
- ②他職種との連携・調整・協働
- ③患者の意欲を引き出す
- ④事故防止
- ⑤早期からの退院に向けた支援
- ⑥疾病管理・再発予防・退院後の自己管理指導



《当病棟として力を入れていること》

☆看護方式は、プライマリナーシング制を取り入れており、入院から退院まで受け持ち患者やそのご家族と強い信頼関係を築き、充実した入院生活が送れるように努めています。

☆転倒転落などの事故防止対策を行い、安全に入院生活が送れるよう努めています。

☆患者を支えるご家族への働きかけ、住宅環境の整備、社会資源を活用する為の支援、現在のADL状況の問題点、リハビリ終了の時期や退院の目安等を、リハビリ状況をふまえて医師、担当看護師、担当セラピスト(PT、OT、ST)で、月1回カンファレンスを行っています。



